

## 韓国薬学研修報告

3年 16A091

竹下茅咲

今回の研修プログラムの一環として東国大学附属病院の門前薬局を見学をさせていただきました。

東国大学の門前薬局に関わらず、韓国の薬局の外観は日本の薬局に比べてとても派手な印象を受けました。また、派手な外観に比べ、店内は日本の薬局とそこまで大きな差は無いように感じました。

今回の滞在先である明洞には、街のあちらこちらに薬局がありました。私個人の感想ですが、街中で薬局を目にする機会は日本よりも多いように感じました。逆に、日本にあるようなドラッグストアを見かけることは少なかったように思います。

今回見学させていただいた門前薬局では、800 から 900 種類の医薬品が常に置かれてい

るそうです。これらの医薬品のうち、よく用いられる医薬品は分包機の中に入れており、処方に応じて自動で分包されます。大学病院の薬剤部でも、同じ分包機が使用されていました。

また、日本の薬剤師は、1日に可能な処方数が40であるのに対し、韓国の薬剤師は75でした。日本の倍の量を処方することができるということは、医薬品を処方する際の手順が日本より簡略化されているのではないかと、もしくは、仕組みが異なるのではないかと、などの疑問が湧きました。

調剤室に置かれている薬は、50音順に並べられており、頻繁に処方される薬は、50音順は無視して1箇所を集めて置いてあるとのことでした。



このような調剤室内の医薬品の配置については、日本の薬局と似ているように感じました。

調剤室に置いてある医薬品の中には日本と同じデザインのパッケージを用いた医薬品も多くありました。

薬局の店内には OTC 医薬品や、サプリメント、歯ブラシやマッサージ機など、様々な商品が売られていました。

店内にも調剤室内の医薬品と同様、日本と同じパッケージの商品が売られていました。店内の商品は日本の門前薬局に比べると、品数はかなり多いように感じました。

見学中にも患者様がいらっしゃいましたが、病院に処方された薬を取りに来る患者様だけ

でなく、店内の商品を買いに来るためだけにいらっしゃる患者様もいました。これは、韓国国内にドラッグストアが少ないことが原因なのではないかと考えました。

今回の研修では薬局見学を始め、東国大学薬学部キャンパス、大学付属病院、漢方市場など、この研修でなければ入ることが出来ない場所を多く見学させていただきました。また、韓国と日本の医療や医療制度の違いを知ることが出来ました。東国大学の学生さんとの交流も多くあり、語学に対する意欲も湧きました。このような様々な経験をさせていただいたことで、今後の勉強のモチベーションも上がり、韓国で同じように薬学を学ぶ友達も作ることができ、有意義な 4 日間を過ごすことが出来たと思います。

